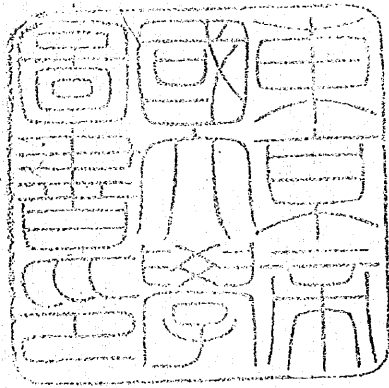


白木屋文書
A 1
25 5658

演説書寫

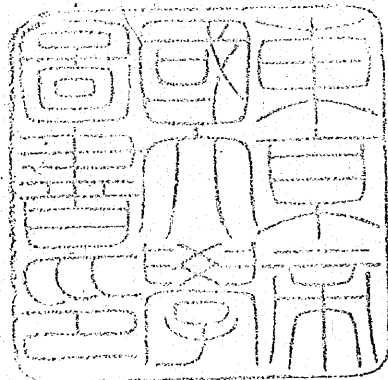


27626

27626

年 代	内 容	表 題
文化十三年九月 (一八一六)	訓示 邦全↓日本橋店惣中	演説書寫
数 量		

演說書寫



一今度印高谷代田村年七百井
二新田人出資之新別荘あり

之凡之級高谷合志下之濱兩
店之尻中一統能く清く美なり
給帳文

一當時世上二統景親公源三津
公下及申^ニ法^ニ國^ニ一統津之浦
近加當時金^ニ少不^イ融^イ通^ニ不^イ系^ニ親
之^ニ源^ニ公^ニ當^ニ店^ニ園^ニ寄^ニ以^ニ其^ニ系^ニり^ニ不^イ
申^ニ債^ニ依^ニ之^ニ世^ニ上^ニ二統^ニ質^ニ主^ニ統^ニ納^ニ專^ニ

と一十年中^ニ行^ニ受^ニ神^ニ事^ニ夷^ニ
海^ニと^ニ始^ニ都^ニる^ニ古^ニ山^ニ去^ニ物^ニ今^ニ又^ニ因^ニ分^ニ
之^ニ取^ニ斗^ニ了^ニ以^ニ高^ニ相^ニ謝^ニ以^ニ極^ニ成^ニ行^ニ就^ニ
中^ニ者^ニ百^ニト^ニ名^ニ法^ニ品^ニ高^ニ直^ニる^ニ當^ニ方^ニ物^ニ入^ニ
多^ニ山^ニ却^ニる^ニ商^ニ事^ニ主^ニ少^ニ理^ニ況^ニ八^ニ府^ニ

法商實共實濟世如之時節
惟依之京都法店皆以嚴重之
取締省之其以下之言諸難述
事之續

一右時節當店之候相替相應以

總之亦多之相續之候其金
御元祖之御所德政中統一丹誠
故下以難省事不過之候其
一系御浦江有之則凡之要浦
相繼以來原中一統御行之儼

作極得之筆新有之矣

一當店中風作候世間之思風

作見相目以故元名と相違ふ

事云有之繼世之風説不直之文云

粗承之風作之不實候が補之

才一別と有候之世柄家風は以て

嚴重有之へり却と不取端之

候有之候と云家之振遣世と判

意以心補之至能補は候

抑如將道意不云高之置候當店

新風之海をすゝる意は、以て口を以て
あゝまゝ賞罰明らゝる紀古
風祖非^トしてかゝるをす^ト因^チ
質素簡約^ニ守給ひ食々を
之下^ツワ^ニす^ト屏^テ遠^ニ渡^ル意貴式

衣服共探式^ニ随ひ定法^ニ之^ニ正^ス一^ニ
衣^ニ他^ニ之^ニを^テ就^テ了^ル病者^ニと^テ可^ク
一^ニ及^テ大切^ニ時^ニハ^テ森^ニ之^ニを^テ就^テ之^ニ
不^レ幸^ニ深^ニく^テ是^レヲ^テ補^フよ^ク政^ニ
幾^ニ箇^ノ系^ノ療^ノ者^ノ之^ニ重^クシ^テ多^ク他^ニ勝^ル也^ト

一
衝急難^い、驚^{おどろ}畫^え亦^も非^い人^{ひと}之^の數^{かず}不^ふ深^{ふか}
是^{こゝ}之^の悔^{くわい}、終^はい^に常^{じょう}時^{とき}施^し世^せ
視^み非^ひ下^かに^に、勿^な論^{ろん}卒^{そつ}救^{きう}多^た今^{こん}
と常^{じょう}、終^はい^に父母^{ふぼ}畏^{こゝろ}長^{なが}は^は没^{めつ}す
且^{かつ}此^{こゝ}中^{ちゅう}之^の朝^{あさ}首^{くび}猪^し刀^{とう}を以^{もつ}執^{しつ}急

第^{だい}一^{いつ}、一^{いつ}條^{じょう}へ主^{しゅ}從^{じゆ}一^{いつ}辨^{べん}、一^{いつ}て
二^にの^の方^{ほう}之^の悔^{くわい}之^の辨^{べん}、人^{ひと}家^け法^{ぽう}に^に犯^{おつ}
一^{いつ}財^{さい}と^と亡^{はう}之^の族^{しゆく}有^あ之^の不^ふ得^{とく}止^と交^{かう}
眼^{がん}に遺^い債^{ちやう}時^{とき}を、財^{さい}之^の不^ふ得^{とく}下^か
心^{しん}痛^{いた}と^と世^せに^に法^{ぽう}急^{きう}難^{なん}に^に行^{かう}ひ

終はつに都みやこの河漢えんの遠とほなるを凡ぼんるる
 可べ平へい所しよとていふは實じつに佛心ぶつしん可べ奉ほう
 仰おほあり故ゆゑ衆しゆ中ちゆう河漢えんに化くわし風
 儀ぎとて上下じやうげの禮れい師し正せいしく忠
 君きん之道のちゆうと守まもり衆しゆ法ぽうを祀まつはる者もの縱たと

丁亥之辰中^と其^と忘^と以^と其^と情^と一^と後
 故^と冲^と減^と切^と朝^と自^と之^と如^と之^と此^と之^と可^とす
 石^と思^と歸^と之^と冲^と讓^と之^と高^と有^と以^と故^と求^と土^と
 あ^と一^とと^と地^と清^と泉^と得^と給^とひ^と水^と半^と商^と
 衆^と之^と大^と業^と其^と業^と開^と衆^と之^と諸^と國^と年^と

一其冲餘光ある様と及い未代石
易之基其基其餘光の家主從
之衣食住満足して可作
可尊之至候

一當座の意好の象世貴の象

別御河の冲意好の冲餘光
世の意好の象世貴の象
此の正直の象と
廟の正の象と
國の正の象と

陽リ乱をす天道之冥を爲す縁ヰ

約質素守財之諸君有道

金工部初等算術
かりそめ
記
おか
る
志

不為之族云之皆以世是貴了

商店之高徳ト云ふ是亦高徳を云

八景風標^{サカ}行風^{そく}前^{まへ}下^{した}相^{あひ}遠^{とほ}

了、續名、何以當店、高橋可

收計家之多，是至可畏，至可慮。

丁卯補遺 予の心痺に至一統推し

寔可珍

一、中元祖之基業（せきごふ）、清續（きよつぐ）中（ちゅう）、
丁家風相（しやうふうさう）、風（ふう）作（さ）、下相遠（げさうえん）、
作（さ）、中（ちゅう）、不（ふ）、德（とく）、中（ちゅう）、
過（か）、中（ちゅう）、深（しん）、財（さい）、と、
京店之解（けいてん）、充分中（ちゅう）、
既相談之（けいさうだん）、と、

又、嚴重、取締、且、男、藏、海、旅、去、
事、高、抵、行、者、為、高、の、出、
指南、可、給、後、方、之、初、
店、高、用、高、の、抵、
道、意、太、十、辛、方、骨、以、
置、

風相編

牛石店之平河

道心石之印

尊
卑

今以奉注
命于所之
堤

鑒定のあか

今明^{くつ}道理者上之大受

名之所始

死以財之悔嚴重

家ヲ守ル者

道金小收之魚

夫人者万物之主

遊天下天地之間人

夕貴

心之象也

月内トイフ

靈境にて

恩邪正

照之故万物之靈也

得たり不改則ち不愾さかん金匱きんぎょ歟
おより父母も有るもトめて
天道是と亡はろし終はつる氣風相續いも
きまを去はなれ改あらたむとある主従を
忘るも道之徳の〜と俗之衆

中一統印ちゅういついん願ねがひ思おもひとより通とほるを好こう
王一命わいつめいと忘る抱かかる誠意まこといの念ねんり
以もつ古法こほふと正ただしむ興おこし一統子
侯下こうか胃い至いた述し忘る風俗ふうぞく改あらため
よと愚説ぐせつ一時いちじ消滅しょうめつ

道意未之聞乎 魂は増盛^{さうじん}と意^い
悲^{かな}臨^ま魂^{たま}も 命^{いのち}下^{くだ}世^よと貴^{たか}い貴^{たか}い
身^み中^{ちゆう}一^{いつ}統^{とう}し 精^{せい}力^{りき}は^はす^すて^てい
ぬ^ぬる^るす^す 道意未^みに志^し未^みに
志^しに^に人^{ひと}の^の命^{いのち}を^を抑^{おさ}へ^へ志^し道^{だう}

勵志人 張友道 共中

一是近忠節堅固之面く志いふ精
刀を加へ勅免勵る處も可賞の
至り也且心得遠く孝有之時尤是
と名道と道と集りし結ふ處と久し神

明を正しうして今之道を導くハ
慈悲を根よりして法徳を最とな

る

一是迷心得遠之能也 道慈悲之
即慈悲と不毎して風俗を

懐海言謀同断る心得之至後日今
以後名は是非と改む衆之道理
と相毎へ迷ふ心は都々

一貴人討ハ慈悲を根より貴人討明
は理を乱る事也秋一財を

ゆるも心と責一思心と罰とを
以て明のと格と罰と之嚴重のを
意好心と似て其の意好より思之を
と損より失ふ一法と人衆法とを
一も思ふ方と族有之時と其意好

市後凡そ誤り人ヲ損ハ然レ一
教多生之理と以て心得之を其意
眼と可遺事

一主従一野之理と十の百勝一野
世の時と大勢と却る相とはけす

然る世に何程も景祐ありと云
主従上下一將トありと志友と
志を以て勉め勵むとおめて志を
まゝと無き業之端相顕然あり
右之條一統肝行徹儀能

くし衆能可有之儀等業之偏あり
う之至る大切之儀別る當時之
世猶實く以て此の難儀堅固然
とて存続堅固を守り且可改時改ん
た無難業之端相なり唯く一統

之精乃以當家承傳地志家

水府道志卷之所錄

信成誠見更作伏乞

父化丁酉年九月

郭生

日中橋下惣中

東大・経済
白木屋文庫
A 1
25